

国家分裂の危機にあるベルギー

国際金融情報センターブラッセル事務所駐在員 橋本 択摩

ブリュッセルに掲げられた多くの国旗

今夏、日本でも大きく盛り上がった南アフリカでのサッカー・ワールドカップ。開幕した6月中旬以降、ここブリュッセルでは、出身国の勝利を願う住民たちが自宅の窓に国旗を掲げる風景がよく目に止まった。さすがは国際都市ブリュッセル。ドイツやスペイン、ポルトガルといった欧州諸国のほか、ブラジルなど南米やアフリカ諸国の国旗も色鮮やかに掲げられ、各々の住民の愛国心を感じ取ることができた。このような風景は、北京オリンピックのときには見られなかったことである。

そして同時期のブリュッセルでは、ベルギー国旗もいつも以上に掲げられていた。しかし、ベルギーは別にワールドカップに出場した訳ではない。また、移民たちに対抗してベルギー国旗を引っ張り出した訳でもない。元来ブリュッセルでは、例えば7月21日のベルギー独立記念日など、祝日の際に国旗を掲げる住民は多い。しかし、今夏については、数と期間と、ちょっと特別だ。

その理由はなぜか。それは、ベルギーが長年続く言語対立の影響により分裂の危機にあり、一方で国家の存続を願う住民がブリュッセルには多く、その意思表示を行っているからである。

複雑極まりないベルギーの政治状況

ベルギーでは北部オランダ語圏、南部フランス語圏の対立が長年続いており（ブリュッセルは二言語併用地域）、今年4月の政権崩壊もブリュッセル近郊地域における言語対立に端を発したものである。こうした言語対立に右派左派の違いも加わって、ベルギーの政治状況は複雑極まりない。リベラル、中道左派などのそれぞれの政党が北部と南部に分かれることで小党分

立状況に拍車をかけており、コンセンサス形成を非常に困難なものにしている。07年6月の総選挙の際、次期政権が発足するまで実に9ヶ月かかるなど、政権発足には時間がかかる。また、今年4月のように一部政党の政権離脱（今回は北部リベラル勢力）により、容易に政権崩壊に至る脆さもある。最近では、ベルギー経済をけん引している豊かな北部政党が、南部への財政移転に反発を強める向きが目立ってきている。この南北対立は欧州全体の状況に酷似しており、この点でもベルギーは欧州の縮図といえる。

北部オランダ語圏では独立派政党が躍進

そして6月13日に国政選挙が行われた。しかしその選挙システムは、合計150人の下院議員が北部（88議席）と南部（62議席）からそれぞれ比例代表制で選出される仕組みである。「これを国政選挙と呼んでいいのか疑問」とする見方は、弊事務所秘書を含めて非常に多い。

選挙結果は、北部ではオランダ語圏の分離・独立を目指す「新フランドル同盟（N-V A）」が27議席を獲得して大勝利をおさめ、南部では中道左派の社会党が26議席を確保した。現在この二政党を中心に連立協議が行われているが、北部と南部の主張の隔たりは埋めがたい。N-V Aのデ・ベール党首は、欧州旗の黄色い星の一つをオランダ語圏の象徴であるライオンに変えた旗をバックにして勝利宣言を行った（独立志向を表現）。N-V Aは当面は完全な独立を求めず、中央政府から社会保障や税制の権限を地方へ移譲するよう求めている。となればベルギー中央政府の役割は、国防・外交など極めて限定されたものになるだろう。ベルギーは7月1日よりEU議長国に就任したが、新政権発足は少なくとも10月にずれ込むとみられている。